

令和3年度北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会 岩手わんこそばラウンド報告書



10杯目!

令和4年2月5日(土) 岩手大学 ※ハイブリット対応

参加者 30名(北海道、福島、東京、神奈川、大阪、福岡、大分、バンコク、岩手)

学生、小中高大の教員及び指導主事が校種や立場を超えて、「ICTを活用した体育学習の現状や課題」、「これからの体育授業の質を高めるICT活用の在り方」について語り合い、10周年に相応しい有意義なラウンドにすることができました。



話題提供「ICTを活用した体育学習の在り方」

GIGA スクール構想の実現へ

GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残さず、公正に個別最適化された、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す



高橋修一先生から多様な子供たちを「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現に向けて、ICTを活用した先端技術や教育ビッグデータの効果的な活用に必要な可能性があることや、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限引き出すことがGIGAスクール構想において求められていることを教えていただきました。また、学校におけるICTを活用した学習場面の具体やGIGAスクール構想に関するこれまでの主な留意事項についてもお話いただきました。



情報交換「ICTを活用した体育学習の現状と課題」

少人数のグループに分かれ、それぞれの所属におけるICT活用における現状や課題となっていることについて情報交換を行いました。WIFI環境の違いやGIGA端末の具体的な活用、遠隔・オンライン教育の実践などが共有されました。ICT活用により運動量が増えたり、学習の効率化が図られたりしたといった効果についても紹介されました。



ワークショップ「これからの体育授業の質を高めるICT活用の在り方」

改めて少人数のグループに別れ、前半は一斉指導、個別学習及び協同学習の視点で、効果的なICT活用の仕方について意見交換をしながらワークシートにまとめていきました。また、先端技術の機能に応じた活用の在り方についても話し合われました。

わんこそばラウンドワークショップ 体育活用アイデア (5)グループ メンバー(小林、関根、中嶋、木原)

	一斉指導	個別学習	協同学習
知識	<ul style="list-style-type: none"> 特性、成り立ち、ルール 行い方 (ポイント、手本と失敗例、練習方法) 健康安全 (ケガ、補助の仕方etc) 態度に関する 	<ul style="list-style-type: none"> 行い方を調べる…関わり方 	
思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> 全体シェア、発表 教師フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見 (見本 cf 自分) → ふり返り 	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見 (相互に) 相互アドバイス、伝え合う
態度	<ul style="list-style-type: none"> 健康安全 		<ul style="list-style-type: none"> 褒め合う、認め合う、(フェア、共生) 補助し合う (協力、責任)
	<ul style="list-style-type: none"> 場の設定 		

良い動きとお手本の動きを見比べられるアプリ(スロー、反転など)グループで同じ動画を見ながら課題をあげていく(協働学習)体育、保健どちらでも画像に誰がアドバイスしたかを入れることで評価の参考(出席番号など)

同じ地区の学校間での動画の共有
お手本動画の個人情報への留意

動画解析(ビックデータの活用)
指導支援ソフト

アプリを使つての生徒との動画を使ったやり取り

遠隔での外部指導者の指導

生徒自身が動画を撮り生徒間での共有
顔にアバターをかけることで個人情報の保護

後半は、ワールドカフェ方式でそれぞれのグループの発表が行われました。短時間でしたが、様々な考えに触れることができ、たくさんの刺激をもらうことができました。また、バンコクの教育事情についても情報提供があり、内容盛りだくさんのラウンドとなりました。ご参会の皆さん、ご協力ありがとうございました。